



浦邸 2014年12月20日



浦邸内部

兵庫県西宮市のJRさくら夙川駅から北に向かう道路の右側に、レンガ積みの壁面をみせたピロティ住宅が目に入る。

以前は10mほどのアプローチがあり、緑に包まれて、道路からは見る事ができなかったようだ。阪神・淡路大震災後に街路拡幅され、建物が露わになってしまったという。

建築主で現在の所有者である数学者・浦太郎がフランス留学時代に知り合った建築家・吉阪隆正の設計した住宅で、1956年竣工である。

交互に積み上げられたレンガが独特の表情を醸し出し、2階が浮遊しているようだ。菊竹清訓のスカイハウス（1958竣工）に影響を与えたかのような感覚にとらわれる。



玄関を見る



居間

くの字の柱が全体を支えている。平面は2つの正方形を45度ずらして重ね合せた単純な幾何学形である。くの字の柱は1つの正方形の角にあたる。重ねた2つの正方形プランが、内部空間を巧みに構成している。外観からは測り知れない空間の妙である。

浦邸の隣に、まったく似たような建築が2006年に出現した。ニコニコ桜保育園である。道路からの外観は、くの字の柱が真ん中に居座り、まさに真似をしたかたちをしている。これは相当な勇気がある設計だと思った。聞くところによると吉阪の弟子である重村力（+Team ZOOいるか設計集団）の設計だということだ。重村は吉阪に敬意を表して外観を合わせたのだという。



2階からピロティを見る



ピロティ。赤い扉は勝手口

ゆるやかな坂道になっている下の敷地に、最高の高さをそろえたように見える。しかしプロポーションは吉阪の浦邸の方が重厚で美しい。

そうは言っても吉阪のかたちに合わせようとした重村の勇気に賞賛を贈りたいと思う。

浦邸は2007年、国登録有形文化財に登録された。これにはひょうごヘリテージ機構H<sup>2</sup>Oのヘリテージマネジャーの働きかけがあったからだという。

現在も住宅として住み続けておられる浦家の家族。90近い浦夫人に家の中まで懇切に案内いただいた。わが家への深い愛着を感じずにはいられなかった。

塩見 寛（静岡地区）景観整備機構副代表



吉阪隆正の浦邸

重村力のニコニコ桜保育園